

お問い合わせ:

広報部

井上敬之 / 野田司

03 6225 7550

takayuki.inoue@ml.com

世界の富裕層人口は870万人に増加; 日本人富裕層人口は5%増加し、140万人に

個人に資産配分の積極化傾向、株式及びオルタナティブ投資へシフト

東京: 2006年6月21日 – メリルリンチとキャップ・ジェミニが本日発表した『ワールド・ウェルス・レポート2006年版(以下レポートと記述)』によると、主たる住居を除く純金融資産で100万米ドル超を保有する世界の富裕層個人の2005年の資産残高は、前年から8.5%増加し、33.3兆米ドルに達した。世界の富裕層個人の人口については2004年から6.5%上昇し、2005年末時点で870万人となった。また、3,000万米ドル超の金融資産を保有する超富裕層個人の人口については、2005年に10.2%上昇し、85,400人となった。

2005年の日本の富裕層個人の人口は前年比で4.7%上昇し、141万人に達した。この増加の主たる要因は、実質GDPの2.6%の増加、堅調な相場環境、デフレ圧力の沈静化及び消費の改善などが挙げられる。レポートは、国内のこれらのポジティブ要因は引き続き2006年も継続するものの、富裕層個人人口の成長に対する一つの障害として、1999年に導入された定率減税措置の解除を挙げている。

世界の資産の傾向

過去3年で初めて、米国富裕層個人の人口伸び率が前年を下回り、2005年は6.8%(2004年は9.9%増加)の伸びに留まった。米国の富裕層人口の伸び率は減少したものの、北米地域は引き続き、最大の富裕層個人人口を誇り、その保有資産残高も最も高い結果となった。

2-ワールド・ウェルス・レポート

ロバート・マッキン メリルリンチ副会長兼個人顧客グループ社長は、「実質GDPの成長と世界の株式時価総額が富の創造の2つの主要な要因となり、2年連続で続いた全世界的な成長の年を経て2005年は、伸び率が後退した地域と大幅な成長が見られた地域とが並存する年となった。富裕層個人にとって特に重要な機会を提供した地域は、2つの主要な要因である時価総額とGDPが2005年においても引き続き高い伸びを示したアジア太平洋地域であった。一方、南米、中東の両地域も力強い成長を示し、域内外から同地域に投資する富裕層個人に大きな利益をもたらした。」と述べた。

2005年で最も劇的に富裕層人口が増えた国は韓国で21.3%の増加であった。また、インドで19.3%、ロシアで17.4%、南アフリカは15.9%の高い伸びをそれぞれ記録した。

世界の富裕層個人はより高い収益を求めて、投資を北米からシフトさせている；高い分散化傾向続く

レポートによれば富裕層個人は、既に投資保護の最大化を図るため十分に資産の分散化を行なっているが、昨年は2004年よりも更に積極的な資産の配分が見られた。

富裕層個人は株式やオルタナティブ商品への投資を増やすと同時に、将来の金利上昇を予測して資金を債券や現預金からシフトさせた。世界的に見て、富裕層個人によるプライベート・エクイティーへの資金配分が増えた反面、過去2年の間で一貫して収益を減少させているヘッジファンドへの投資は減少している。

北米地域は依然として最大の資産が集中している地域でありながらも、富裕層個人は引き続き投資を同地域外にシフトさせている。2004年に米ドルは富裕層個人からの信頼を失っており、よって北米投資も減少傾向が続いている。2005年には幾分米ドルが持ち直す局面があったものの、結局は低い収益性から投資家は北米への配分を削減している。

3- ワールド・ウェルス・レポート

一方でアジア太平洋地域は2005年に欧州地域を抜き、世界で第2位の投資残高を記録している。世界の富裕層個人の保有総資産に占める、昨年のアジア太平洋地域への投資は23%に上った。

不動産は昨年も高い収益をもたらした; 今年は減速が予想される

金利上昇と業界の減速懸念にも関わらず、不動産は2005年に富裕層個人に引き続き高い収益をもたらした。2004年にもたらされた利益からは大きく減少したものの、富裕層個人は2005年も不動産投資を維持した。

富裕層個人、及び複数の金融機関のファイナンシャル・アドバイザーへの取材の結果、富裕層個人は2006年には不動産への配分を減らすことが予想されている。

展望

レポートは、世界の富裕層個人が今後数年に亘って、継続的に成熟市場から新興市場に資産を移転していく傾向があることを示している。

富裕層個人がアジア太平洋地域及び南米地域に資金の再配分を進める中、北米地域、欧州地域への投資は今後2、3年の間減少が予想される。資産ミックスにおいては、富裕層個人はやや積極的なポートフォリオ形成を行なう可能性が高く、現預金及び不動産への配分を減らし、株式やオルタナティブ投資へ資金を振り向けることが予想される。

ベルトラン・ラベシエール キャップ・ジェミニ、グローバル・フィナンシャル・サービス マネージング・ディレクターは、「富裕層個人の国際投資への高い関心は、彼らの昨今の株式及びオルタナティブ投資への傾倒と合わせて、世界の最も裕福な層がより洗練された投資家になりつつあると同時に、2003年や2004年と比べてもより収益を求める傾向を強めていることを明示している。」と述べた。

4 – ワールド・ウェルス・レポート

2010年までに、世界の富裕層個人の総資産は毎年平均で6.0%づつ上昇し、44.6兆米ドルに達すると予想される。

メリルリンチについて

メリルリンチは、世界 36 ヶ国・地域に拠点を擁し、総顧客預かり資産が約 1 兆 8,000 億ドルに上る世界有数の総合金融サービス会社である。幅広い資産クラスの証券、デリバティブの売買や引受けにおいて世界のリーダーとなっているほか、各国の企業、政府、機関投資家、個人などに戦略的アドバイザリー・サービスを提供している世界有数の投資銀行である。また、メリルリンチ・インベストメント・マネジャーズを通じて、世界有数の資産運用会社でもある。運用資産残高は全社で 5,810 億ドルに上る。メリルリンチの詳細についてはwww.ml.comで知ることができる。

キャップジェミニについて

コンサルティング、テクノロジー、及びアウトソーシング・サービスを提供する世界最大の企業の一つであるキャップジェミニは、コラボラティブ・ビジネス・エクスペリエンスと名付けた独自の手法を用いて顧客にサービスを提供します。顧客との相互の成功へのコミットメント、及び目に見える価値の達成を通じて、キャップ・ジェミニはビジネスが成長戦略を実施し、またテクノロジーを駆使し、コラボレーションの力を通じて繁栄することを支援します。現在、世界中で約 61,000 人の社員を雇用し、2005 年の世界全体の収益は 69 億 5,400 万ユーロ。

キャップ・ジェミニのウェルス・マネジメント・プラクティスは、継続的に顧客が革新的な成長戦略を策定する支援に加え、顧客関係管理ソリューション、ウェルス・アドバイザーのためのワークステーション、オンラインベースのフル・サービス提供、フロント及びバックオフィスシステムの実施を支援します。

個々の事業部門、オフィス、調査商品についての詳細は、www.capgemini.com をご覧ください。2006年ワールド・ウェルス・レポートは、www.capgemini.com/worldwealthreport をご覧ください。

#